

名稱

卯梶ハ桃木ニテ作リタルモノニテ卯杖ヲ獻ル日絲所ヨリ獻ル臣民ノ間ニモ亦互ニ贈遺シテ之ヲ祝セリ

〔伊呂波字類抄字〕卯杖本朝事始云持統天皇正月朔日朝萬國於前殿乙卯大學生

察獻杖八十枚或云正月卯日以桃枝作剛卯杖厭鬼也

〔書言字考節用集器財〕卯杖ウツクシ

〔倭訓栞前編四〕うづゑ卯杖と書り正月上卯日桃梅椿柳などにて杖を作り五色の糸にて卷て大やけに奉る也略○中剛卯とも穀段とも見えもとは漢朝の故事にて我邦にては持統紀より始て見えて百官參内の時に賜はれる儀もあり歌の辭書にうづゑの松をたまはりてと見え賀茂の年中行事には日蔭苔をも用たりされば廣業卿卯杖の詩に女蘿色舊大椿杖と作り伊勢神宮にも奉りし事儀式帳に見えたりうづゑのほうし枕草紙に見え熱田の祭に卯杖舞あり

〔夫未和歌抄卯杖〕御方違よりまた曙ほどにかへらせ給ふとて卯杖ほがひをきこしめしてと云

云

あさまだきいのる卯杖の玄るしあらば千とせの坂もゆかざらめやは

〔榮花物語十一〕うへ條三いづらば若宮女稚子はととはせ給へば命婦のめの毛おひだきたてまつりてまい略中あなうつくしひみたてまつらせ給ていだきとりたてまつらせ給てもあるかいみみせたてまつらせたまふとてきにくきまでいのりいはひつゝけさせ給ことゝもをおまへに候人々はえねんぜずおのづからうちさゝめきうづゑほがひなどいふ心あこそすれどて玄のびやかにわらふをいかにくとおほせらるほどもすゝろにめでたゞおぼえさせ給

花山院御製

〔世謡問答〕正月問て云正月に卯杖と申事の侍るにや答をのづからもろこしに桃杖をもて